

A

緊急性の判断と対応

A-1 緊急性が高いアレルギー症状

① 30秒以内に評価

顔色が悪い 呼吸が苦しい 意識がおかしい

② 5分以内に評価

【全身の症状】

ぐったり
意識もうろう
尿や便を漏らす
脈が触れにくい
または不規則
唇や爪が青白い

【全身の症状】

のどや胸が締め付けられる
声がかされる
犬が吠えるような咳
息がしにくい
持続する強い咳き込み
ゼーゼーする呼吸

【全身の症状】

持続する強い
(がまんできない)
お腹の痛み
繰り返し吐き続ける



ひとつでもあてはまる場合

ひとつもない場合

A-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

(1) ただちにエピペン[®]を使用する！



C

エピペン[®]の使い方

(2) 救急車を要請する（119番）



D

救急要請のポイント

(3) その場で安静を保つ

（下記の体位を参照）

- ◆ 急な体位変換は心停止の危険を高める。移動させない。
- ◆ 10~15分後に症状の改善が見られない場合、2本目のエピペン[®]を投与する。

(4) 呼びかけても反応がなく、呼吸がなければ

心肺蘇生を行う



F

心肺蘇生とAEDの手順

(1) 保健室などに移動

(2) 内服をさせる

(3) 保護者に連絡する

(4) 上記の①は途切れることなく評価する

A-1の②は5分ごとに評価し

E 症状チェックシート
に記録する

ぐったり意識もうろうの場合

安静を保つ体位



血圧が低下している可能性があるため、仰向けで足を15~30cm高くする



嘔吐物による窒息を防ぐため
体と顔を横に向ける

吐き気、嘔吐がある場合



呼吸が苦しく仰向けになれない場合
呼吸を楽にするため、上半身を起こし、後ろによりかからせる